

令和4年3月31日

第50号

北代縄文通信

－ 北代縄文広場この一年 －

本広場の展示室は、新型コロナウイルス感染症対策として、令和3年8月18日（水）から9月12日（日）まで臨時休館しました。

再開後は、広場への来場者にはマスクの着用等の表示を臨時休館前と同様に行い、ホームページでも再度案内しました。また、資料館等の展示施設の入館者制限も臨時休館前と同様に継続し、新型コロナウイルス感染症の感染防止に努めました

㊦ ミニ企画展「追分茶屋遺跡」を開催（7/13～1/23）

追分茶屋遺跡は、縄文時代中期（前葉）の集落遺跡です。昭和58（1983）年度の調査では、竪穴建物跡5棟、埋甕^{うめがめ}1基、ピット（穴）群がみつかりました。調査区の北東側に竪穴建物跡を多く確認し、竪穴建物跡からやや離れた南西側にピット群を確認しました。

出土遺物は、縄文土器、土製品、石器等です。遺物は主に、竪穴建物跡やピット群から出土し、土器の多くが細片でした。縄文土器は主に、中期（前葉）の新崎式^{にんざき}です。土製品は、土偶が出土しています。土偶は、眉や鼻をY字形の粘土紐を使い、目や口を刺突^{しとつ}して表しています。

石器は、磨製石斧、打製石斧、石鏃^{いしきじ}、石匙（一端につまみ状の突起があり、するどい刃部をもつ石器）^{じんぶ}等が出土しています。



出土した土器や石器等

㊦ ミニ企画展「古沢遺跡」を開催中（1/25～7/10）

古沢遺跡は、旧石器・縄文・奈良・平安時代に営まれました。

今回の展示は、昭和62（1987）年の発掘調査を基に、縄文時代の遺構や遺物について紹介しています。発掘調査では竪穴建物跡は見つからず、多くの穴や土坑を確認しました。

出土遺物は、縄文時代中期から晩期の土器、石器、土製品などです。石器は、磨製石斧、打製石斧、たたき石、^{くぼみ}凹石、石棒、石刀などです。土製品には、笛状土製品があり人面を形どっています。刺突により目、口を表現し、眉や鼻は粘土を貼り付けています。底部の穴は、口とつながっており、吹いてみると、小さな高い音がわずかに出ますが、土笛か否かは今後の研究が待たれます。



笛状土製品 正面



笛状土製品 斜めから

来場者 20 万人

平成 11 年 4 月 29 日にオープンした北代縄文広場は、令和 3 年 5 月 4 日に来場者 20 万人となりました。



来場者 20 万人の表示

北代縄文考古楽講座

北代縄文考古楽講座は、令和 3 年 11 月 12 日に長岡公民館で、久々 忠義富山考古学会副会長を講師に迎え「立山と縄文人」をテーマに講演していただきました。



北代縄文考古楽講座

新型コロナウイルス感染症対策 (令和 3 年度)

- (1) 北代縄文館は、令和 3 年 9 月 14 日から再開しました。再開後は臨時休館前と同様に、新型コロナウイルス感染症対策のため、展示室への一度の入館者を 7 人程度、復原竪穴建物への一度の入館者を 4 人程度に制限し、復原高床建物は閉鎖しました。また、縄文土器づくり等の体験学習は中止しています。
- (2) 各種イベントの開催を見直し、夏休み！きただい子ども縄文教室、文化の秋の縄文土器づくり講座を中止しました。また、富山県教育委員会が例年行っている、社会に学ぶ「14 歳の挑戦」は、中止されました。